







明治九年五月五日一校了

七

東心頓氏萬國公法卷之二原稿

東心頓氏

惠頓氏萬國公法卷之七

第三篇

第二章

チコレニイラン 商議及ヒ トウリナ 約定、權利

約定、權利論

第二百五十二條 凡ソ各國互ヒニ商議約定ヲ

為ス、權利ハ其國未タ主權ヲ讓ラズ又ハ盟約

ニ因テ約定、權利ヲ減制セザレハ十分此本權

ヲ行フテ得半自主國屬國、如キニ至テハ此

權利減制スル所アリ而シテ自主國ト雖モ同盟聯

合スル時ハ亦此權利ヲ減制ス故ニ互利加合

衆國ノ如キハ公會ノ允准アルニ非レハ嚴ニ外
 國或ハ聯邦互ヒニ約ヲ立ツルヲ能ハス然レモ
 亦日耳曼聯邦ノ如キニ至テハ聯合ノ大法ニ悖
 ラサレハ各邦皆通商同盟ノ約ヲ立ツルノ權テ
 有
 各國他國ト高議約定ヲ為スノ權利ニ至テハ誰
 レカ其權ヲ主ル各ニ國法ニ控テ以テ決定ス君
 主專政君民同治ノ如キハ通例其權君主ニ歸シ
 又民主ノ國ニ在テハ其權首領國會或ハ議院ニ
 歸スレナリ

約定式様

第二百五十三條 凡ク各國互ヒニ約定ヲ取結
 ンテ之ヲ正実トセントスルニハ如スレモ言語
 式様ノ定則アルニ非ス蓋シ約定雙方ノ同意ハ
 明言シテ立ツルモ、アリ或ハ黙許シテ立ツル
 モノアリ其明言シテ立ツルモノハ或ハ口約ヲ
 以テシ或ハ書約ヲ以テス而シテ兩國ノ全權公使
 調印シテ約定ノ趣意ヲ明書シ或ハ雙方互解ヲ
 以テシ或ハ文書ノ式ニ倣テ互行スルモノアリ
 但シ近世ノ習慣ニ因リ口約ハ後日ノ爭端ヲ恐
 ル、カ為ニ必ス連カニ書記スレテ例トス其書

記レテ未タ調印ヲ為サ、ル前盡クヌ所、口儀
ハ之ヲ明證ト考フ可カラズ又其黙許レテ立ツ
ルモ、ハ約定ヲ為ス、全權アラサレ、人、立ッ
ル盟約トス然レモ約内、事既ニ行ハル、ニ日
テ更ニ全權アレ、ノ約定ト異ナルイナリ雙方
暗ニ同意ヲ示スモノヲ云フ

第二百五十四條 各國公使特權ヲ受ルニ非ス
偶々職内、全權ヲ斟酌レテ以テ決定スル所、
約定アリ此、如キハ即チ陸軍將帥及ヒ水師提
督交戦、時免状ヲ出レテ通商ヲ許ルレ或ハ浮

スボレンヤ
擅約論

虜交換、為、或ハ休戦、為、或ハ府城降参等
ノ為、兵ヲ停メテ互ヒニ決定スル所、約定ヲ
云、此等ノ約定ハ特ニ約内改メテ後チ、確定
ヲ為スヲ明言セサレハ別ニ君主、確定ヲ要ニ
サレナリ

第二百五十五條 權ナクシテ 結ビ 或ハ權ヲ越
テ 結フ所、約定ハ 称ケテ 之ヲ 擅約ト謂フ也、
如キ約定ハ必ス後チ君主、明許黙許ニ因テ確
定ヲ為サ、ん可カラズ 明許ハ例ニ照ラシテ 明
文ヲ副ヘ 黙許ハ則チ 約スル所、事ヲ 行フニ 因

テ暗ニ確定ヲ示スナリレ而シテ等ノ約定ニ至テ
ハ約シテ後々其可否ヲ通セサレハ未タ確定ヲ
示スニ是ル可カラズ故ニ著シ此約定ヲ准ルサ
ス彼フシテ終ハサラシメント欲セハ必ス其意
ヲ報知セサレ可カラズ然ラサレハ信義ニ違フ
所アリ然レモ彼レ著シ實ニ約ヲ立ツル全權ア
ルニテ結約ト信レテ既ニ其事ヲ多ク施行シ其
後我レ其約ヲ行フヲ欲セサレハ則チ既ニ信レ
テ行ヒル人ニ對シ賠償ヲ為シテ前位ニ復セ
シムレナリ

第二百五十六條 凡ソ公使他國ニ使シテ彼國
ト約定ヲ議決シ調印ヲ為スノ權ヲ得ントス
ルニハ必ス信翰ノ外別ニ全權ノ證書ヲ有セサ
ル可カラズ

第二百五十七條 虎哥氏及シテ我々云ク凡ソ全
權公使ニ因テ議定調印スル所ノ約定ハ其君主
必ス之ヲ遵守セサル可カラズ是レ各國一般ノ
規則トス虎哥氏又全權ノ證書ト訓状ト別アル
ヲ論ス即チ全權状ハ彼國ニ寄示ス一ツキモ、又
訓状ハ唯我々君ト公使トノ知ル所ノモノニ

シテ必ス秘レテ公ニス可カラサルモノナリ著
公使事ヲ行フニ全權狀ノ權ヲ越ヘサル時ハ
縱令ニ我カ訓狀ノ秘意ヲ越エル所アルモ必ス
君主其使臣ノ約ヲ遵守セサル可カラズ此説ハ
國ト羅馬法ニ出ルモノニレテ近世公卿ノ亦大
ニ論スル所トス

實氏ノ説

第二百五十八條 實克舍氏云ク凡ソ使臣全權
ヲ帶ヒ秘諭ヲ受ケ其意ニ隨ニ事ヲ決スル時ハ
君主後々其約ヲ確定セサル可カラズ然レモ公
使權ヲ越ヘ更ニ其全權狀及ヒ訓狀中ニ在ラザ

ル一ヲ高議決定スル時ハ君主其確定ヲ辭スル
一ヲ得可レ後々之ヲ確定スルト否トハ宣レシ
時ニ隨テ以テ決定ス

發得耳氏ノ説

第二百五十九條 發得耳氏云ク若シ信翰中特
ニ國君確定スルノ明言アラサレハ則チ公使ノ
約定ヲ其君遵守セサル可カラズ是レ同氏書ヲ
著ハス時既ニ行ハル所ノ常例トス蓋シ國君
ハ使臣ニ全權ヲ與ヘテ事ヲ高議セシム秘ケテ
之ヲ全權公使ト謂フ故ニ全權公使ハ其君ノ委
任ヲ受ケテ事ヲ高リ其權皆主君ノ訓諭ニ出ツ

是ヲ以テ公使ハ必ス其訓示ニ背ク能ハス而シテ
權ヲ越ヘス命ニ違ハスレテ行フ所ノ約ハ其君
必ス守ラサレテ得サルナリ
然レモ現今ノ常例ヲ按スルニ公使全權ヲ帶テ
事ヲ議決スルトモ其後々猶ホ國君ニテ再議確
定スルノ權ヲ保存ス使臣全權ヲ執テ事ヲ議ス
ルトモ其君之ヲ確定セサレハ其約束ト正定
ト取ル可カラズ然レモ公使全權ヲ以テ決シタ
ル約定ヲ國君苟モ確定スル一ヲ欲セザル時ハ
必ス其因故ヲ陳ヘ殊ニ公使其君 訓諭ニ背キ

公使全權ノ説

タル所以ヲ證明セザル可カラズ公使全權ヲ帶テハ國
君決シテ確定ヲ辞スル能ハサルナリ國君其臣
ニ全權ヲ與ヘテ國家ノ大事ヲ議セシムルト庶
民代人ヲ命シテ私事ノ約ヲ結ハシムルト受ニ
區別マシキヤ極メテ少シトス公使全權ヲ以
テ決スル約定ヲ後々國君再ヒ確定スルハ蓋シ
古例ニ出ル所トス
第二百六十條 公使全權トシテ公使全權ヲ帶テ
一國他國ト商議決定スル規則ハ事務ニ因テ權
限甚ク廣ク故ニ後々必ス本主確定スルヲ例

トス然レモ亦確定セサルモ敢テ公法ニ背リ
非ルナリ蓋シ公使全權ヲ帯テ他國ニ使ヒ事ヲ
商議決定スル時ハ固ヨリ其君ト同權ヲ以テス
ルトモ其君猶ホ其君確定セサルノ意ヲ含蓄シ而
シ其可否ハ本主ノ訊状ニ因テ決定ス

第二百六十一條

ハ其意同ヨリ廣ク而シテ確定ノ約定ヲ為ストモ
モ若シ公使其君ノ訊状ニ背キテ事ヲ議決スル
ニ至テハ君主之ヲ確定スルノ義務アル可カラ
ズ古ヘノ公使比事ニ付約定ノ義務ヲ決定スル

万国公法

所ノ説ハ即チ此世ノ公使亦能ク其論スル所
トス同氏云ク公使ノ以テ正定トスルモノハ独
リ國君親ラ他國ト決約シ或ハ全權公使君ニ代
テ決定スルモノ、ニテ謂フ但全權公使ノ決ス
ル約定ハ其信託ノ權ヲ越ヘサルヲ以テ始メテ
正定トス而シテ後々ノ確定ヲ要スルハ其信託中
ニ其意ヲ明言シ或ハ約定中ニ其意ヲ記スル時
ノ以テトス兩國ノ一方確定ヲ為ストモ他ニ及
モ他ノ一方ヲ以テ同レク確定セシレハ及ハ
ズ凡テ約定ハ調印ノ時ヨリ施行スルモノニシ

テ敢テ確定ノ日ニ拘ルニ非ス又公使權ヲ越ヘ
テ結フ所ノ約定ニ至テハ國君後々確定スルモ
ノ、外遵守ス可カラズ又一國ノ主宰敵國ニ擣
トナル時一國ノ名ヲ售テ敵ト取結フ約定ハ一
國得テ守ル可キヤ或ハ越權ノ約定ト認ム可キ
ヤ未タ決セザル所ナリ

第二百六十二條 マルテン氏ノ説ハ率子コリス
ベル氏ノ説ト異ナラスマルテン氏ニシテ凡ツム
法ニ於テ公使全權ヲ帶テ他國ト商議決定スル
ハ固ヨリ他國其全權タシク信シテ決約スル所

マルテン氏ノ説

ナレハ総合ニ公使其君ノ秘諭ニ依リテ所アルモ
特ニ之ヲ確定スルノ義務アル可カラズ然レモ
深ク之ヲ攷ルニ公使ニ全權ヲ與フルニ公使其
事ヲ輕慢シテ一國ノ大事ヲ誤リ遂ニ其國ノ大
害ヲ醸サンコトヲ患フルカ故ニ再議確定シテ後
チ始メテ至ヒニ其約定ヲ遵守ス可キモノトス
若シ兩國ノ内一方確定スル時ハ他ノ一方亦凱
謫ノ權ヲ越ヘスレテ行ヒハ其確定ヲ辭スル能
ハス唯我カ便ヲ測テ妄リニ之ヲ辭スル能ハサ
ルナリ

マルテン氏書ヲ著ハシクリエヘル氏ノ説ヲ解テ
云ク夫レクリエヘル氏ノ説ヲ按スルニ兩國確定
ヲ交附スルノ義務ニ至テハ其論スル所全ク相
反對ス曰必ハ則チ確定ヲ要スルハ其全權中或
ハ約定中ニ其意ヲ明言スルニ非レハ行ハスト
ス蓋シ此論後チ確定ヲ辞スルノ權利ヲ需ムル
ニ過キサルナリ然レモ是レ亦「マルテン氏内氏
ノ意ヲ大ニ誤解スル所アルニ似タリ曰氏内ヨ
リ此ノ如ク全權ヲ任シテ決定スル公使ノ約定
ヲ以テ謂レナク妄リニ確定ヲ辞ムルヲ得ルノ

論ヲ考ケタルニ非ルナリ

全權公使ノ決レタル約定ヲ國君確定スルヲ辞
スル時ハ必ス其道理ヲ演ヘ殊ニ公使君諭ニ背
キタル一ヲ證明セサル可カラズ是レ發得耳氏
ノ前ニ論スル所ニシテ此論必竟國君確定ヲ辞
セリトスル時ハ君令ニ背キタルヲ以テ名義ト
為ス可キノ意ヲ示スニ過キス然レモ公使君令
ニ背カストモ其權限猶ホ國君確定ヲ辞シ其約ヲ廢
スルヲ得ルノ例ニアリ

第二百六十三條 其一 繼令ニ確定ノ後トモ

其事ヲ遂リト能ハサルヲ以テ終ニ約定ヲ廢ス
 ルトテ得ルハ即チ本國實ニ力足ラスニテ棄ス
 ルトアリ或ハ約ノ如ク行フ時ハ別國ノ權初ツ
 害スルニ至テ廢スルトアリ此ニ事ニ於テハ既
 行フト重氏即チ確定ヲ辭スルトテ得ルナリ
 其二雙方誤テ事ヲ議決スルニ因ル蓋シ是レ雙
 方ノ誤約ニ出ルモノニシテ既ニ其實情ヲ知レ
 ハ果シテ決セサルノ約ナリ
 其三時勢ノ變遷ニ因テ約定ヲ遂クル能ハサル
 時比ノ如ク變遷ニ遇フ時ハ確定ノ前後ニ拘ラ

ス其約ヲ廢スルトテ得

第二百六十四條 約定ハ特ニ異條ヲ定ムルニ
 非レハ凡テ調印ノ日ヨリ雙方字ル可キ例ト
 ス而シテ確定ノ交換ハ其日ヨリ重子テ約定ヲ正
 實ニスルニ過キハ近時政羅巴四大國土耳其ノ
 内事ヲ管制シテ各國全權公使ノ決定スル約定
 ハ其最モ著明ナルモノニシテ即チ確定交換ノ
 前既ニ施行シテ各國皆之ヲ遵守セシ是レ則チ
 一千八百四十年奧英普魯土ノ五國ニ因テ決ス
 ル所ノ約定ニシテ其約ニ録シテ云ク今約定ス

ル所、各國互ヒニ離散遠隔シ且ツ欧温、共益
ヲ斟酌シテ公使各々國君、確定ヲ俟タス直チ
ニ其約ヲ施行スルイヲ同意一決ニ此例公使、
約定ハ國君、確定ヲ要スルノ例ニ違フト雖モ
然レモ深々考フル時ハ自ラ別ヲ即チ公使其
君、確定ヲ得互ヒニ同意シテ行フ可キモノト
其確定ヲ俟タスレテ行フ可キモノト其別アラ
サルヲ得ス

第二百六十五條 凡、他國ト高議決定スル所
ノ約定ヲ確定シテ其國ツ守ラントシ、權ヲ執

約定確定權國
制ニ從テ論

ルモ、一國誰レニ歸スルヤ各々國制ニ從テ定
ムルナリ君主專治ノ政ニ在テハ公使ノ約定ヲ
確定スル、權國君ニ歸シ君民同治ノ政ニ在テ
ハ其權立法院ノ會議決定ニ歸スルナリ又英國
ノ如キ民主ノ政ニ在テハ元老院ノ同意日許ニ
因テ首領始メテ國ニ代テ確定スルノ權アリ故
ニ使臣他國ト高議決定スル約定ハ暗ニ此國
法ニ從テ再議確定スル、意ヲ含蓄シ英國ノ如
キハ毎ニ公使ニ全權ヲ與ヘテ事ヲ決ストト雖
モ後チ首領元老院ト高議日決シテ猶ホ其約ヲ

確定スルヲ明言ス

第二百六十六條 兩國ノ約定既ニ確定シテ然レ
 時ハ必ス雙方約ノ如ク守ラサル可カラズ然レ
 此約定ヲ為スノ權國法ニ因テ減制スル所アリ
 法律ヲ加ヘテ始テ行フ可キカ如キ例ハ國土
 ヲ讓ルヲ禁スルカ如キ約定ニ於テハ一國ノ因
 意ヲ得ルニ非レハ約定ノ義務未タ十分ト云フ
 可カラズ又和約ヲ為スノ權ハ其章程ヲ決スル
 ノ權アリテ是地國產及ヒ一國ノ主權ニ屬スル
 私產ヲ讓ルノ權アリ而シテ國法ニ於テ之カ為シ

特ニ減制スル所ナキ時ハ則チ時機ニ從テ公產
 私產ヲ讓與スル亦可ナラサルナレ
 兩國通商航海ノ法律ヲ改革スル約定ニ至テハ
 立法權ノ應諾ヲ得テ而シテ後チ行フ可キナリ故
 ニ從前英佛ニテ取借ヒタル通商ノ約定ハ英國
 議院之ヲ改ムルヲ肯シセザルヲ以テ意ニ行ハ
 レズ又貨幣ヲ施行スル約定ニ於テハ英王之ヲ
 議院ニ諮リ其應諾ヲ得テ而シテ後チ施行ス可キ
 フ例トシ英國ノ政体ニ於テ首領元老院ノ同議
 同評ヲ以テ高堂決議スル所ノ約定ハ即チ取テ

米國ニエアライムロー、大法ト為スナリ故ニ公會ニ於テハ其信
ニ違フノ法ヲ制ス可カラス須ラク其約定ヲ施
行スルニ至要、法律ヲ行フ可キナリ

第二百六十七條 凡ツ文明國、通則ニ於テ人
民強迫ヲ以テ決スル約定ハ其事必ス虛無ニ歸
ス凡テ約定ハ隨意ニ結フモノニ非レハ得テ正
約ト為ス可カラズ若シ夫レ強迫ノ約定ヲ以テ
遵守セシムル時ハ弱ハ必ス強ノ為ニ逼迫セ
ラレテ正理アルモ其權利ヲ讓ラサルヲ得ス現
今衆人此ノ如キ約定ハ成行スル能ハサルヲ知

ワイロレンス
強迫ノ約定ヲ論ス

テヨリ其逼テ約ヲ立ツルモノ甚タ稀ナリトス
然レモ各國ノ約定ニ就テ論スル時ハ亦逼テ立
ツルモノモ守ラサル可カラス即チ戦争ノ際兵
敗レ民苦ミ敵我カ地ニ踞蹠シ彼レ迫テ我ニ約
ヲ勸ムルカ如キハ其約強迫ニ出ルト雖モ亦必
ス遵守セサル可カラズ蓋シ此等ノ約ハ人ノ
保安ヲ斟酌シテ結フモノニシテ若シ兵敗レテ
後々其約ヲ結ハサレハ我子ルノ期ナク敗兵盡
滅遂ニ闔國亡フルニ至ル可キヲ以テナリ故ニ
強迫ノ約定ハ固ヨリ互ヒニ強弱損益大ニ懸隔

無期、約有期、
約ヲ論ス

アルヲ以テ之ヲ虚無トシテ守ラサルノ理アリ
トモヒ各國、交際ニ至テハ則チ利害、懸隔ヲ
以テ其事ヲ廢シ其約ヲ守ラサルヲ得サルナリ
第二百六十八條 各國ノ約定二種アリ無期ノ
約定有期ノ約定是ナリ無期ノ約定ハ則チ一度
ニ施行スル時ハ國君ノ交換國政ノ變革ニ拘ラ
ス永遠傳フ可キモノトス而シテ繼令ニ兩國一旦
不和トナリテ戰時暫ラク停メテ其約ヲ行ハズ
ト雖シ和ニ復スレハ則チ改メテ議定スルナリ
其約必ス回復ス地ヲ讓リ疆界ヲ定メ土地ノ

下
案

交換或ハ他國ト共益共用ヲ圖ルノ約定是ナ
リ

一千七百八十三年英米和約ヲ立テ英國米國ノ
獨立ヲ認メ兩國ノ民ノ產業ヲ沒收セサルナリ
決定シ一千七百九十四年ノ約定ニ因テ米國ニ
在ル英人所有ノ田産ト英國ニ在ル米人所有ノ
田産ハ互ニ外人之有ニ係ルト雖モ均シク沒
收ス可カラサルナリ決定シ米國上等裁廳裁
テ云ク英國ノ人民米國ニ在テ有スル所ノ田産
ヲ沒收ス可カラサルナリ既ニ一千七百九十四

事、約定ニ因テ決定ス故ニ其後ノ立法或ハ他
 ノ事故ニ因テ其産ヲ没収スルヲ得ルヲスレ
 令ニ一千八百十二年兩國ノ戦争ニ因テ一旦其
 約棄棄セラル、トスルモ約ヲ持レテ置ク所ノ
 産業ニ至テハ戦争、為ノ其不有權ヲ奪フ、理
 アル可カラサルナリ然レモ亦兩國戦争、為ノ
 一旦廢セラレ、ノ約定和ニ復レテ後々再議改
 定セサレハ則テ其條約トナルモ、アリ約定
 ニ因テ必スレモ一般ニ論ス可カラス即チ約定
 ノ事ニ因テハ巴ムヲ得ヌ戦争、為ノ廢棄セシ

ル、モ、アリト虽モ國權ヲ定メ、國權ヲ維持ス
 ル如キ永遠不朽ノ約定ニ至テハ兩國戦争、為
 ノ實ニ之ヲ廢スル、理アル可カラサルナリ一
 千七百八十三年ノ約定ニ於テ英國、法國、獨逸
 ヲ認メ其疆界ヲ定ムルカ如キモ戦争、為ノ此
 約ヲ廢セシトスル時ハ遂ニ再ヒ兵ヲ起シテ裁
 ハサルヲ得サル可シ此、如キ永遠流傳、約定
 フ一朝戦争、為ノ廢約トナスハ實ニ全理ヲ失
 フト云フ可キナリ故ニ上等執聽者シテ云ク、永
 遠流傳、權利ヲ認ムル約定ニ至テハ平時戦争

ニ拘ラス必ス存シテ守ル可ク我輩ニ遇ヒハ則
チ暫ラク停ムルノミニシテ必ス之カ為メ廢ス
可カラズ而シテ兩國公議シテ互ヒニ廢約ヲ決ス
ルカ或ハ別ニ行フ可カラサルノ新約ヲ立ツル
ニ非レハ和ニ復スルノ後チ前約必ス回復ス

第二百六十九條 一千七百八十三年英米和約

ノ第三條ニ云ク米國ノ人民ハ新著大島ノ海岸

其他英屬ノ海岸ト並ニ從前兩國ノ人民共ニ漁

獵セシ儀ハ以後從テ漁獵ノ權利ヲ得可ク又

米人ハ其他米人ノ殖民ヲ為サハル港灣等ニ進

北亞米利加北海岸
漁獵ノ權利ニ付英
米兩國ノ爭論

テ自由ニ乾魚ヲ製スルコトヲ得可ク但若シ其他
殖民ヲ為スニ至テハ即チ其居民ト之カ為メ特
ニ約定ヲ結フニ非レハ米人乾魚ヲ製スルノ權
利アリサルコトヲ決定セシム

第二百七十條 一千八百十四年セントピートル

英米兩國ノ全權公使會議ヲ開キ英國公使論シ

テ云ク我カ英國政府ニ於テハ曾テ北米^亞和加英

國屬地ノ疆内ニ在テ米人ニ許ルス漁獵ノ權利

ニ於テハ以來米國ニ准ルスコトヲ欲セシ米國公

使之ニ對テ云ク曾テ米人ニ許ルス漁獵ノ權利

ニ此テハ我今改メテ之ヲ議スルノ權ナシ而シテ
 一千七百八十三年ノ約定ニ於テ認ムル人漁獵
 ノ權初ニ此テハ英國政府改メテ之ヲ議シ更ニ
 約定ヲ決スルヲ要セサルナリ故ニケシ止、和
 約、於テハ別ニ漁獵ノ取極メヲ為サス然レモ
 其後英國政府英國政府ニ對シ曾テ前約ニ於テ
 羊人ニ北海ノ漁獵ヲ許ルスト雖モ此以來北亞羊
 人加英國管轄ノ海岸三里内ニ於テ羊船ノ漁獵
 ヲ禁ム其他未タ殖民ヲ為サレル地ニ進ムテ乾
 魚ヲ製スルノ禁令ヲ行ハナイヲ論シタル

第二百七十一條 英國ニ歸之ニ答テ云ク抑羊
 人此地方ニ在テ漁獵ノ權利ヲ得タルハ實ニ久
 シキヲ歴ルモノニシテ既ニ英羊分立前ヨリノ
 事トス而シテ羊人其地方ニ在テ漁地ヲ發見シ此
 業ニカツ尽シタルノ功亦大ナリト云フ可キナ
 リ一千七百八十三年ノ約定ニ於テ英國英國
 人獨立ヲ認ム又此地方ニ於テ羊人ニ准ルレタル
 漁獵自由ノ權利ハ萬モ疑フ所ナレトス
 第二百七十二條 英國政府之ニ答テ云ク羊人
 英國ノ管轄内ニ於テ漁獵ノ權利ヲ得ントスル

ハ全ク一千七百八十三年ノ約ニ因ル所ニシテ
人他國ノ疆内ニ來テ賠償ヲ為サス奇リニ其業
ヲ管マントスルハ特約アルハ外必ス准ルス可
キ、理ナレ米國政府ニ於テハ我輩、為ノ前約
ヲ廢ス可カラサルノ論ヲ主張スルト雖モ英國
政府ニ於テハ必ス此論ニ服ス可カラサルナレ
第二百七十三條 米國公使又之ニ對テ云ク英
國ノ論ハ所決レテ服シ難ク一千七百八十三年ノ約定ハ永遠守ル可キノ義務ニシテ我輩、
為ノ廢ス可カラサルヲ論シタリ

論議

有期ノ約定ノ論

第二百七十四條 以上論スル所ハ必竟我輩ニ
因テ永久ノ約定ヲ廢ス可キヤ否ヤヲ解クモノ
ニシテ兩國ノ事ニ遂ニ一千八百十八年ノ約定
ニ於テ整理ス即チ米ノ英國ノ管轄内ニ在テ漁
獵自由ノ權利ハ海岸ヲ距ル若干里内ニ限ル丁
ヲ雙方決定セシ
第二百七十五條 又有期ノ約定ハ和約同盟通
商航海等ノ約定ヲ謂フ而シテ等ノ約定ハ縱令
ニ其約因永遠行フ可キノ條アルト雖モ勢ニ行
フ可カラスレテ廢約トナルモノナリ而シテ

論議

廢スル、故四ツル

其一 約定、兩國何レカ士ヒテ廢セラル、モ
レ

其二 国内政体、変革ニ因テ決約ノ地位全ク
變シ勢ニ行フ可カラサルニ至リテ廢約トナル
モ、然レトモ愛ニ國約ト君約トノ別アリ其國約
ニ屬スルモノハ國君主宰ノ更易ニ拘ラス必ス
其國守ニ可ギモ、トス君約ハ即チ國君ノ一身
ニ屬シ其君存在中守ル可キ、約ニシテ毎ニ存
亡テ國君ト共ニス

其三 兩國和ヲ失シテ戰ヲ起ス時廢セラル、

モ、然レモ若シ預ノ雙方約定アリテ兩國和ヲ
失スル等ノ事アル時ハ日ヲ期シテ敵人財ヲ攜
ビ歸國ヲ准ルレ或ハ他ノ裁權ヲ減制ス可キノ
明條アル時ハ其約於ホ存ス可キナリ即チ英米
一千七百九十四年ノ約定ニ因テ兩國人民ノ負
債或ハ公私ノ銀庫ニ藏スル金銀等ニ至テハ裁
奪ノ為メ兩國世ス之ヲ沒收ス可カラサルヲ
約シタルカ如此レ比約定ノ義務固ヨリ戰爭等ノ
事變ヲ預防スルモノニシテ兩國公議商定シテ

廢スルニ非レハ必ス存レテ守ル可キノ義務ト
ス

其四 約定ノ期限満キテ再議商定スルニ非レ
ハ必ス廢約トナルモノ或ハ約定ノ事已ニ成就
シテ自ラ廢セラレハモノ或ハ大變アルニ遇ヒ
テ地位全ク變化シ勢ニ行フ可カラサルニ至リ
自ラ廢セラレハモノ

第二百七十六條 各國ノ盟約和約多クハ兩義
ヲ量マシモノア少 昂テ其約永遠不朽ノモノナ
リ或ハ雙方何レカ 戰爭ノ如キ 大變ニ遇リ先約

保護ノ約定

用エル能ハサルニ至ルモノアリテ其約ノ存廢
決シ難キニ歸スルモノ曾テ斷テカラス是ヲ以
テ約定ハ和議ノ後必ス特ニ條款ヲ補テ前約ヲ
確定シ永遠廢ス可カラサルヲ明言ス即チ外
似非初及ヒ烏得喇ニ於テ數國約ヲ立テ戰後和
約ニ確定シテ復行ストノ例ハ竟ニ政府各國疆
界ヲ分定シテ永ク變ス可カラサルノ公法トナ
リタリ其後佛國ノ大亂ニ於テ此為約定復ヒ破ル
第二百七十七條 凡ソ保護ノ約定ハ各國屢ニ
行ハルノ約定ニシテ此約定ハ一國他國ヲ保護

シテ其別國ヨリ侵凌ヲ受ルヲ免レシムルヲ約
 スルナリ即チ此約ハ各般ノ權利義務ニ用ニ
 モノニシテ或ハ疆界ヲ定メ或ハ主權或ハ政体
 或ハ継位等皆此約ヲ以テス然レヒ和約ノ時再
 ニ背カラサルヲ保護スルヲ以テ就中多シト
 而シテ此約ハ特ニ約定ヲ立テ行フイアリ或ハ本
 約ニ保護ス可キ條款ヲ加ヘテ行フイアリ
 保護ノ約定ハ本約ニ係ラサル他國ヨリ保護ス
 ルモノアリ或ハ平約ヲ立ツル一國他國ノ為メ
 ニ保護スルモノアリ或ハ教國互ヒニ保護スル

モノアリ即チ一千七百四十八年歐協八國約ヲ
 立テ互ヒニ其約ヲ守ル可キヲ保護スルカ如シ
 保護ノ約ヲ立ツルモノハ其定ムル所ノ保助ヲ
 為スニ過キス若シ保助シテ及ハサルモ敢テ賠
 償ヲ為スノ義務アルニ非ズ又助ク可キノ約ア
 リト雖ヒ別國ノ正理ヲ害スル能ハス或ハ前約
 ニ背テ事ヲ行フ能ハス保護ノ約ハ其時定ムル
 所ノ權利ヲ保護スルノニ必ズ後日ノ餘事ニ及
 ハサルナリ且即保護ト保護ト別アルヲ論ス蓋
 シ保護ノ約ハ本人約ヲ遂ケサレハ即チ本人ニ

代テ賠償ヲ為スモ、ヲ云ヒ保護、約ハ唯カ
竭クレテ保助シ本約ヲ行ハシムルモ、ヲ云フ
發得耳此云ハ賠償ヲ得可キ事物ニ係、例ハ
幣銀ヲ以テ償フ可キ如キ約定ニ係ル時ハ保護
ノ約ヲ立ツルヨリ復ラシ保証ノ約ヲ立ツ可キ
ナシ

アリエンス
合兵盟約論

第二百七十八條 凡ソ合兵ノ盟約ハ防禦ト攻
代トノニアリ其防禦ニ係ルモ、ハ相共ニ拒禦
防戦スル、アリ又其攻代ニ係ルモ、ハ或ハ一
定ノ敵ニ對シテハ敵敵ニ對シ兵ヲ合シカハ協

セ、以テ攻撃アルノ會盟ヲ為スモ、ヲ云フ會
盟、約本攻防ヲ兼ヌルモノアリ

第二百七十九條 會盟兵ヲ合スル、約ハ有限
ノ兵ヲ助クル、約ト甚ク別ヤリ蓋シ一國他國
ニ有限、兵丁戰艦幣銀糧糶等ヲ助クルヲ約シ
更ニ交戦敵對スルヲ應許スルニ非レハ此約ニ
因テ有限、兵ヲ助クルト雖モ此ヲ視テ敵國ノ
敵ト為スニ非ス此、如キハ唯其助ケル兵
馬等ヲ敵ト為ス、ニ餘ハ皆局外ヲ以テ論スル
ナリ即チ古來瑞西聯邦歐協各國ト、交際ニ於

ルカ如シ

第二百八十條 虎哥及こ他、公郎論シテ云ク
 凡ソ防禦、會盟ハ曲我ニアルノ我ニ用ニ可カ
 ラス即チ曲會盟ヲ乞フ國ニ在テ我端ヲ啓ラク
 モ、ヲ助ク可カラサルヲ云フ蓋シ平時、約定
 ニ於テ我時兵ヲ助クルノ條アルモ、必ず直我ニ
 在ルノ我事ヲ指シテ云フハ既ニ明言ナレトモ
 此處ヒニ黙許スル所トス曲我ニ在ルノ我ヲ助
 クルノ約ハ固ヨリ不正ノ義務ニシテ此ノ如キ
 約定ハ到底虚ニキニ歸スルナリ然レモ亦此黙

英蘭會盟條約

許ハ曲我ニアル時、外用ス可カラス必ス之ヲ
 名實トシテ助ク可キノ義務ヲ隨レ信ラ友國ニ
 失ス可カラサルナリ然レモ若シ彼我曲直分明
 ナラサル時ハ以テ我カ友國ヲ助クルヲ例トス
 而シテ等ノ事ヲ行フハ全ク約内保護ノ言語性
 質ニ從テ決ス可キナリ即チ今在ニ其例ヲ舉テ
 以テ之ヲ詳明ス

第二百八十一條 一千七百五十六年英佛戰爭
 前和蘭宰相英國ト同保同護ノ約ヲ立ツルト三
 次トス其第一次ハ即チ互ニ、強鬼ヲ保存スル

ヲ約スルモノミレテ兩國既ニ有スル所ノ地或
ハ將來和約ニ因テ歐洲内ニ得ル所ノ地ヲ迭ヒ
ニ保護シテ永存スルコトヲ定メ又兩國現今或ハ
將來他國ト取結フ所ノ約定ヲ互ヒニ保護シ又
現在屬スル所ノ各府各城或ハ將來得ル所ノ府
城ヲ互ヒニ保護シ若シ他國ノ侵襲ニ遇フ時ハ
直チニ若干ノ兵馬我艦ヲ率ヒテ相援ケ而シ其
既ニ我ニ所ニ一國ヨリ援助ヲ乞ハル、時ハ必
ス其報ヲ得テ後二月間ニ兵ヲ出シテ我ニ友國
ノ敵ヲ視ル我ニ敵ヲ視ル如ク日心協力以テ交

我ニ禦スルコトノ決定ス

英蘭第二ノ防禦會盟ハ一千七百九十年一千七百
十三年ノ兩約ニ於テ定ムル疆界繼位等ノ事ニ
シテ即チ一ハ和蘭比初時ト、疆界ヲ保護シ一
ハ英國王位ノ継統必ス耶蘇教ノ人ニ傳フルコ
トヲ保護ス而シ著シ一國事有テ敵ノ侵襲ヲ受ル
時ハ他ノ一國連カニ若干ノ兵ヲ出シテ之ヲ援
ケ若シ事急ニ迫リテ大兵ヲ要スル時ハ位テ援
兵ヲ増シ終ニ力ヲ協セ兵ヲ合シテ盡力交戦ス
ルヲ盟約ス

英蘭第三次防禦會盟ハ一千七百十七年ニ決
 定スルモノニシテ佛國亦之ニ同盟ス此會盟ノ
 主意ハ烏得喇^{ウーデルラ}ニ於テ定ムル約ノ如ク三國互ニ
 疆界ヲ保護スルヲ決定スルモノニシテ前約
 ノ章程ヲ守リ前約調印ノ時政協内ニ有スル所
 ノ權利各品等ヲ保護シ而シテ此約定ニ由テ定ム
 ル所ノ援兵ハ則チ初メハ其事ニ管輿シテ調劑
 シ次ニ援兵ヲ出シ次ニ戰ヲ公布スルニヤト
 第二百八十二條 曾テ烏得喇ノ約定ニ因テ
 ノ一島英國ノ屬地トナリ而シテ佛兵未テ此地

ヲ次代セシ時和蘭前約ヲ食ニ赴テ之ヲ援ハス
 故ニ英國政府和蘭ノ對シ前約ノ違反ヲ督責ス
 干時和蘭政府其援兵ヲ肯ンセサルニ二理アル
 ヲ辨シテ云ク其一英國國ト戰ヲ索メタルニ出
 ヲ約定ニ從テ援兵ヲ出スハ最初佛國ヨリ英國
 ヲ侵シタルニ非レハ得テ守ル可カラズ其二佛
 國從令ニ歐協ニ於テ兵ヲ起スモノ、巨魁ト至
 其因ニ起ル所必竟英佛先キニ亞米初加ニ於
 テ戰爭ヲ開キタルニヤリ是レ前約定防禦會盟
 ノ明條アルニ非ス故ニ赴テ援ハサルナラズ

第二百八十三條 英國政府之ニ對テ云ク 縱令
 此前約ヲ以テ論スル時ハ固ヨリ防禦會盟ノ約
 ニ歸スルト由地和蘭之ヲ名實トシテ援兵ヲ拒
 ムノ意ヲ決ス可カラズ蓋シ兩國互ヒニ相保護
 スルヲ約スル所以ノモ、ハ兩國ノ内何レカ他
 國ノ侵撃ヲ受ト時ハ必ス相援テ相護ニ以テ永
 ク疆内ヲ保全スルニヤリ兵ヲ起スモノハ前後
 ニ因テ此援ノ當否ヲ論スルニ非ルナリ約定内
 言語詳細ナラズト由地兩國約ヲ立ツル時ハ必
 ス守ル可キノ信勿ル可カラズ然レハ則テ約内

ノ義務ヲ斟酌レテ以テ永ク友國ノ信ヲ尽スヲ
 當理ト為ス可キナリ又佛國政協ニ在テ兵ヲ起
 スハ必ス元英佛亞米利加ニ在テ交戦ヲ始メタル
 ニ歸スルト由地之ニ因テ和蘭援兵ヲ辭スルノ
 口實ト為ス時ハ英蘭防禦ノ約定全ク烏有ニ屬
 シ更ニ敵ヲレテ攻撃ノ便ヲ得セシムルニ近シ
 蓋シ敵兵陽ニ約内ニ載セサル地ヲ襲撃セシト
 シテ驟カニ方向ヲ變シ他ヲ攻ムルノ謀ヲ逞フ
 ス可ク和蘭亞米利加ニ於テ有スル所ノ屬地ヲ
 伊國攻撃スルモ必ス之ヲ援テ可カラズ凡ソ一

國ヲ為スモノ心ス此ノ如ク正約ヲ輕視シテ信
ヲ友國ニ失フ可カニサルナリ保護ノ約定ハ必
ス相共ニカヲ尽シテ其國ヲ保存スルニ在リ英
國兩國ノ前約ハ實ニ我ニ、歐州疆外ニ起ルヲ
論スレニ非ス俱ニ歐州ノ疆内ヲ保護スルニ萬
モ疑フ所ナレ

英葡兩國會盟

第二百八十四條 防禦會盟ノ義務ハ又英葡兩
國ノ約定ニ因テ明瞭タリ此約定ハ一千六百四
十二年葡國西班牙國ト分立スルノ後立ツルモノ
ニシテ即チ兩國同盟保護ノ約ヲ決定ス一千六

百六十一年ニ於テ復ヒ之ヲ確定シ葡國他國ノ
侵襲ヲ受ル時ハ何時ヲ辭セズ英國陸カニ兵ヲ
出シテ救護ス可ク而シテ葡國密カニ英國ト約シ
テ丹吉耳及ヒ門買^{ポムバイ}ノ地方ヲ讓リ英國之カ為メ
現今將身共葡國得ル所ノ地方著シ敵國ニ襲ハ
ル、時ハ英國必スカヲ盡シテ萬敵ヲ防ク可キ
トテ約諾ス又一千八百七年葡國ノ王族巴西^{ブラジル}
遷リ英國又約ヲ立テ葡國ノ王位永ク正統ノ君
ヲ立テ別人ノ位ニ即クヲ認メサルトテ保證ス
又一千八百十五年維納也ニ於テ兩國約ヲ立テ

云々一千八百十年兩國協護ノ約ハ全ク一時ノ
勢ニ因テ設クルモノニシテ既ニ今日之ヲ條フ
可カラス故ニ其約ヲ廢止ス然レモ兩國久シク
守ル所ノ友誼ヲ失ハス會盟協護ノ舊約ヲ嘗テ
1ナリ尚ホ新約ヲ立テ施行ス可キ1ヲ決定ス
第二百八十五條 其後西班牙國葡國ノ唇位ヲ奪
ハントスル時英國葡國ヲ保護セシモ全ク兩國
會盟保護ノ約アルニ由ル所トス抑々各國ニ於
テ取捨ヲ防禦會盟ノ主意ハ互ニニ防禦ノ戰爭
ニ於テ相救護スルニマシ蓋シ防禦ノ戰爭ハ直

我ニ在テ曲彼ニ在リ我カ友國我ヲ故ナクシ
テ他國ノ攻伐ヲ受ケ遂ニ己ム1ヲ得ス防我ス
ルモノヲ云フ例ハ佛國西班牙國ノ如キ兵ヲ起
シテ葡國ニ入り其政府ヲ傾ケントスルカ如キ
ハ英國果シテ葡國ヲ助ケルノ罪證アリ又若シ
兵備ヲ調一暗ニ友國ノ臣民ヲ挑唆シ密カニ不
軌ヲ圖ラシムルカ如キハ亦ハ防禦ノ盟約ニ
因テ之ヲ助ケルノ理アリ彼レモ亦救護ヲ求ム
ルノ權利アリトス此ノ如キハ現ニ兵ヲ進メテ
攻代スルニ異ナラス却テ其害甚シトス明ニ襲

フモ暗ニ襲フモ其理一ナリ故ニ英國一旦其事
ヲ調ヘレト致シテ遂ニ成ラサル時ハ即チ葡國
ヲ助ケテ佛國ニ對シ師ヲ起スノ權アラザルヲ
得ザル可シ

ホストエヤ
質ヲ交換シシバ
堅フスルノ論

第二百八十六條 約定ハ時トシテ互ヒニ人質
ヲ交換シテ其信ヲ堅フスルイアリ即チ一千七
百四十八年ノ約定ニ因テ英國北亞米利加ノ屬
地ヲ佛國ニ給還スルヲ決定シ英國貴族教ヘテ
巴勒府ニ遣ハシ即チ質トナレテ以テ其事ヲ保
証スルカ如シ

約件ノ解説

第二百八十七條 公約ヲ解説スルハ他ノ法律
約定ト異ナルイナレ凡ハ言語ヲ以テ約定ノ意
ヲ書記スルニ十分其意ヲ尽ス能ハサルハ各國
言語ノ必ス免レ難キ所トスレ故ニ約内ノ意ニ疑
議ヲ生スル時即チ之ヲ解説スルノ規則アリ此
規則ハ虎哥氏ノ書殊ニ發得耳氏ノ書ヲ以テ就
中其詳ナルモトス

中保ノ權

第二百八十八條 兩國爭論アル時ハ時トシテ
別國其間ニ立ケ之ヲ理ムルイアリ而シテ之ニ與
カルニ別國自ラ求メテ来ルイアリ或ハ一國或

ハ兩國請テ来ルイアリ或ハ預メ約定アルニ因
テ来ルイアリ若シ夫レ請ハスレテ来ル時ハ兩
國辭シテ之ヲ受ケサル可リ然レモ若シ前約ア
ルニ因テ来ル時ハ世ス之ヲ受ケサル能ハス受
ケサレハ則チ信ヲ失フト謂フ可キナリ若シ受
テ而メ兩國其中保ヲ承諾スル時ハ中保ヲ為ス
ノ國則チ其弊端ヲ理ムルノ權アリ然レモ世ス
事ヲ強迫シテ兩國ノ本意ヲ害フイ能ハス又兩
國ノ中保ヲ為スト雖モ其約永遠成ルノ施行ヲ
保証スル能ハス然レモ中保ヲ為スモノ屢シ其

保証ヲ為スヲ例トス

第二百八十九條 凡ツ公儀ヲ為スノ學ハ別ニ
一定ノ學術アルニ非ス苟モ賢德才能見聞ヲ廣
クシ世務ニ熟達スル人ニ非レハ其任ニ當ル能
ハス而シテ其才能ヲ養フハ史鑑ニ通シ交際ノ情
ヲ明カニスルニイリ然レモ亦此才能ノ是ヲサ
ルハ獨リ書ニ因テノミ補フ能ハサルナリ

萬國之法卷之八終

三
治
卷

